みどりを育む

横造協だより

発　行　Vol.39
一般社団法人　横浜市造園協会
広報委員会
横浜市中区尾上町1-6　VORT 横浜関内Ⅱ 7階
TEL 045-662-9897　FAX 045-664-5633
http://www.yokohamashizoen.or.jp

花と緑であふれる都市・横浜の実現に向けて

横浜市会議長　松本　研

昨年開催されました「第33回全国都市緑化よこはまフェア」は、横浜市内外から想定を大きく上回る来場者をお迎えし、大変賑わい、大成功のうちに閉幕しました。横浜の街が、花や緑で華やかに彩られ、多くのお客様に改めて横浜の街の魅力を知っていただけたものと思います。これは、会場の整備や維持管理に携わっていただいた、横浜市造園協会の皆様をはじめとした関係者の皆様の多大なる御尽力の賜物であり、横浜の造園の力を広く発信できたものと感じています。

そして、よこはまフェアの成果をここで終わらせることなく、今後も引き継いでいくことが重要であり、平成30年度からは「ガーデンネックレス横浜」に取り組んでいきます。「みなとエリア」や「里山ガーデン」での取組に加え、市内各区や地域の皆様とともに盛り上げを図り、花や緑を通じて、皆様が心豊かに、笑顔になれるような取組を展開していきます。

平成21年度から取り組んでいる「横浜みどりアップ計画」は、第2期目の5か年計画が終盤を迎えています。計画の目指す緑豊かな横浜の実現に向け、樹林地の保全や市街地での緑の創出に取り組むとともに、平成31年度以降の取組についても、皆様の御意見を伺いながら、積極的に議論を進めていきたいと考えています。

都市公園では、市民の皆様に安全で快適に御利用いただけるように、計画的な再整備等を進めるとともに、皆様に身近な公園から、多様なレクリエーションに対応できる公園まで、しっかりと整備を進めていきます。よこはまフェアで「里山ガーデン」として人気の高かった横浜動物の森公園についても、整備に向けて着実に取り組んでいきたいと考えています。さらに、小柴貯油施設跡地や舞岡町などでは、大規模な土地利用転換にあわせた公園の整備を計画的に進めているところです。

また、米軍返還施設である旧上瀬谷通信施設の土地利用は、農業振興と土地活用による郊外部の新たな活性化拠点の形成を目指し、地権者と市で検討しているところです。さらに、地域の知名度やイメージの向上、国内外の先導的なまちづくりにも寄与するとともに、よこはまフェアの成果を継承し、「ガーデンシティ横浜」の魅力を世界に向けてアピールするためにも、早期に国際園芸博覧会の招致を実現したいと考えています。

「ガーデンネックレス横浜」里山ガーデン

２０２０年開催の東京オリンピック・パラリンピックや国際園芸博覧会など、世界から横浜に注目が集まる機会を好機ととらえて、より一層、花や緑があふれる魅力的な都市となるよう取り組んでいきたいと考えていますので、引き続き御協力いただきますよう、お願い申し上げます。

林文子市長新年あいさつ

皆様、明けましておめでとうございます。昨年は本当にありがとうございました。全国都市緑化よこはまフェアは、６００万人を超えるお客様にお越しいただき、大成功でございました。私も何度も会場に足を運びましたけれど、本当に皆様に「綺麗ね～」と言っていただきました。色々な自治体にバラ園はございますが、大体平坦なんです。横浜は、見事に高低差が作ってあってツルバラがあり、その下に色々な種類の花が植わって素晴らしかった。横浜は花卉栽培も大変有名ですが、それが造園技術と一体となって、見事な展開をしたと思います。会期中には桜、チューリップ、バラと見頃の花がどんどん移っていきました。株式会社サカタのタネ様には、ラバーズタウンというチューリップをフェアのために作って頂きました。また、フェアでお披露目した後、世界中で本格的に販売を開始されると伺いました。本当に光栄な事でございます。

「ガーデンシティ横浜」を展開

このフェアを通して、「ガーデンシティ横浜」にたどり着きました。これはもう都市のブランドとしては最高なものになると思います。この勢いを継承し、「ガーデンシティ横浜」をさらに展開してまいります。

今年、横浜みどりアップ計画は10年目を迎えます。今回も、また取組を継続したいと願っております。

来春は、皆様のお力を頂戴して、山下公園、港の見える丘公園、日本大通りなどを春の花々で色鮮やかに彩ります。それからもちろん里山ガーデンも春と秋に公開したいと思います。昨年秋の再公開では、雨が多い中、９万人の方にお越しいただきました。春と秋ではお花の雰囲気が変わりますし、１ヘクタールの大花壇はなかなか見ることができません。今回も大変魅力的なところになるはずです。

また、今、豪華客船がどんどん港に入って来ています。昨年は１７８回。今年の予約は２０４回入っています。どうですか。花が咲き誇る公園の向こう側に、大さん橋の綺麗な客船が見える風景。こうした色々なものが一体となり、この街が美しく彩られるのではないかと思います。是非、造園業界の皆様のお力をお借りし、また皆様の腕を見せていただきたいと思っております。本当にありがとうございました。今年は本当に希望にあふれる年です。経済効果が出ていくと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

（平成30年新年賀詞交歓会ご祝辞要旨）

造園技術発揮の場に臨めて感謝

（一社）横浜市造園協会
会長　田澤　重幸

昨年３月から約70日間開催された「第33回全国都市緑化よこはまフェア」では、当協会員の活躍の場を与えていただきまして、誠にありがとうございました。

一同努力した甲斐もあり、フェア会場の基盤整備をはじめ、植物や花の持っている力、造園力の素晴らしさを「横浜公園」「日本大通り」「山下公園」「港の見える丘公園」「新港中央広場」など様々な公園、緑地等に最大限に発揮できたと思っております。そのスキルを活かしこれからの「ガーデンシティー横浜」を盛り上げていきたいと考えています。

市民の皆様の要望により、昨年９月には里山ガーデンにおいて、約１ヘクタールの「秋の大花壇」が公開されました。今後とも季節ごとの公開の継続に向けて当協会も「里山ガーデンフェスタ」実行委員会のメンバーとして、様々な団体とともに協力していきたいと考えております。

また、会員の皆様には恒例となりました「よこはま花と緑のスプリングフェア２０１８　花壇展」に20区画の花壇を出展していただきます、担当会員のみなさにはご負担をおかけしますが、今回は「象の鼻パーク」においての開催となりますので、都心臨海部エリアの盛り上げのためにご協力よろしくお願いいたします。

今後、よこはまフェアのレガシーを「ガーデンシティー横浜」として継承し、横浜で開催される「フラワー&ガーデンショウ」など様々な花や緑のイベントへの協力、あふれる花や緑のある街並みの創出等、横浜市民の皆様に潤いと安らぎを与えられる空間を作り続け「国際園芸博覧会」の実現に向け横浜市造園協会が一丸となり邁進してまいりたいと考えております。

新たな中期計画の基本的方向について

政策局長　小林　一美

横浜市では今年1月に、「新たな中期計画の基本的方向」を発表しました。

人口減少社会の到来

人口減少社会の到来が目前に迫り、生産年齢人口の減少や超高齢社会の進展による労働力や社会の担い手の減少、人や投資の東京一極集中の加速など、横浜を取り巻く環境は厳しさを増し、直面する課題はより一層深刻化していきます。

そこで、これまでの実績を土台に持続的な成長モデルを実現し、直面する課題を乗り越え、次の世代へ「横浜」をつなぐため、2030年を展望した6つの戦略と、2018～2021年までの4年間に取組む38の政策、そして、これまでの環境未来都市の取組に加え、土台となる行財政運営により、新たな中期計画の考え方や骨子となる基本的方向をまとめました。ここでは、新たに戦略分野として定めた環境関係を含む6つの戦略を中心に紹介します。

力強い経済成長と文化芸術創造都市の実現（戦略1）

市内中小企業の皆様の喫緊の課題である人手不足対策、事業承継への支援を拡充します。

昨年立ち上げたプラットフォーム「I・TOP横浜」の規模・業種を越えたつながりや、「LIP・横浜」の産学官・金融のネットワークの活用など、新たなビジネス機会の創出を図ります。

また、文化芸術による新たな魅力や賑わいの創出により、多くの人を惹きつける都市を目指すとともに、国際的イベントの誘致・開催支援を通じた集客促進などにより、地域経済活性化を目指します。

花と緑にあふれる環境先進都市（戦略2）

昨年開催された「全国都市緑化よこはまフェア」には600万人、秋の里山ガーデン再公開には9万人もの皆様に来場いただくなど、花や緑への感心が高まっています。

この成果を継承した「ガーデンシティ横浜」の取組の展開として、「ガーデンネックレス横浜2018」と称し、みなとエリアと里山ガーデンで、新たな花と緑による活力と賑わいの創出を図ります。それにより、旧上瀬谷通信施設への国際園芸博覧会の招致につなげる機運の醸成を図ります。

また、「環境未来都市」として、国内外をリードしてきた成果を土台に、国が進める「SDGs未来都市」選定に挑みます。

第 33 回全国都市緑化よこはまフェア

超高齢社会への挑戦（戦略3）

いわゆる団塊の世代の人々が75歳以上の後期高齢者になる2025年問題を克服するため、いち早く完成した在宅医療連携拠点を軸とした医療と介護の連携を強化するなど、地域包括ケアシステムを推進します。また特別養護老人ホームの整備加速や、小児・周産期医療の充実、将来必要となる病床の確保、それらを支える医療人材の確保・育成に取り組みます。

さらに、健康寿命の延伸に向け「よこはまウォーキングポイント」での歩数計アプリの運用を開始し、より若い世代、働く世代の参加を促すなど、様々な施策により超高齢社会に向けた備えをしっかりと進めます。

人が、企業が集い躍動するまちづくり（戦略4）

横浜駅周辺でのエキサイトよこはま22、企業集積を活かしたみなとみらい21地区の開発、市庁舎の移転を契機とする関内・関外地区のまちづくり、横浜文化体育館の再整備等を推進し、横浜都心部の魅力向上を図るとともに、国内外から人や企業を呼び込みます。

PHOTO by Hideo MORI

郊外部では、駅周辺での地域特性に応じた機能強化を図り、身近な交通ネットワークの維持・充実を進め、だれもが愛着を持ち、住みたい・住み続けたいと思えるまちづくりを推進します。

また、旧深谷通信所及び旧上瀬谷通信施設の跡地利用を推進し、郊外部の活性化拠点づくりを進めます。

未来を創る多様な人づくり（戦略5）

引き続き保育所待機児童ゼロを目指し、新たな受入枠の整備、保育士の処遇改善を行います。

小児医療費助成制度は、平成31年4月から、通院助成の対象を中学3年まで拡大できるよう準備を進めます。また子どもの可能性を広げる教育やいじめ防止等の課題への対応、中学校昼食における選択制の充実等をはじめ、子育て、教育環境の充実や、女性、若者、シニアなどあらゆる世代がポテンシャルを発揮できる都市を目指します。

未来を創る強靱な都市づくり（戦略6）

横浜港においては、客船受け入れ機能の充実、LNGバンカリング拠点の検討など、国際競争力のある港の実現を進めます。

昨年開通した北線に続き、横浜環状北西線は、平成32年までの開通を目指します。神奈川東部方面線の整備を進めるとともに、今年秋までの相模鉄道本線星川・天王町駅間の全線高架化、鶴ヶ峰駅付近での、着工に向けた準備などを進めます。

また、喫緊の課題である公共施設の保全・更新に着実に取り組むとともに、担い手となる市内中小企業の育成・活性化を図ります。

災害対策についても、地震や地震火災に強い都市づくりを進めます。

また、局地的な大雨や台風に備え、グリーンインフラという新しい概念を取り入れた浸水対策を図るとともに、がけ地対策を着実に進めるほか、これまで以上に、自助共助の取組を推進し、災害に強い人づくり・地域づくりを推進します。

今後は新たな中期4か年計画の策定に向けて、素案、原案の策定を進めていきます。

横浜市造園協会の皆様にはこれまでの御支援にあらためて感謝するとともに、今後ともお力添えをお願いします。

里山ガーデン 3/24 ～ 5/6　みなとエリア　3/24 ～ 6/3

平成30年新年賀詞交歓会を開催

平原敏英副市長の音頭で乾杯

1月12日ホテル横浜ガーデンにおいて平成30年新年賀詞交歓会を開催した。

林文子横浜市長（1面記載）、松本研横浜市会議長、梶村充自民党横浜市支部連合会幹事長からご祝辞を頂き平原敏英副市長に乾杯の発声をいただいた。

ご来賓には横浜市関係各局幹部、自民党国会市会議員・関係団体120名のご参会いただき新年の挨拶を交わした。

花と緑の職業体験コーナー
「造園屋さん」に協賛

樹木に魅せられて（第34回）

花や緑で笑顔に

横浜市環境創造局
全国都市緑化フェア推進課
吉野　美沙樹

昨年の3月25日から6月4日まで第33回全国都市緑化よこはまフェアが開催されました。4年間、フェアの仕事に携わることができ、様々な経験を積むことができました。

平成26年の4月にみどりアップ推進課の緑化フェア担当に配属になり、決まっていることは「平成29年春の緑化フェア開催を目指す！」ということで、それ以外は何もはっきりとは決まっていない、何をやっていいかも分からないという状況からのスタートでした。みどりアップ推進課に配属になる前は公園緑地整備課で整備に係る仕事を行っていましたが、みどりアップ推進課での仕事は主に調整や計画づくり、懇談会の開催や組織の立ち上げ準備など、今までに経験したことのないような業務ばかりでした。準備を進めていくなかで、「本当に花と緑で人は集まるのか？」など様々なご意見もいただき、色々なことを考えさせられる1年でした。

平成27年4月には全国都市緑化フェア推進課が立ち上がり、ようやく一緒に事業を進めていく仲間も増え、フェア開催に向けた動きも本格化していきました。その中で、私は里山ガーデンの整備に携わらせていただきました。

私は東京で育ち、横浜市で働いてからも主に中区の公園整備を担当していたので、「横浜＝おしゃれな港街」というイメージをもっていました。里山ガーデンの現場を担当することになり、横浜にも豊かな緑が残っているのだと、改めて感じることができました。

里山ガーデンの整備中は、一番多い時で10社近い業者さんが現場に入り乱れました。毎週の職員及び現場代理人の方々など関係者全員による工事定例では、「どうやったら現場が良くなるか」と意見を出し合い、お互いに積極的に協力し合いながら、施工を進めていきました。このような大きな現場を担当したのは初めてで、プレッシャーもありましたが里山ガーデンに係る全員が一丸となって、現場を作り上げていく過程は楽しく充実した毎日でした。

フェアが開幕してからは、ほぼ毎日ように里山ガーデンに出勤し、主に植物の維持管理を担当していました。会期中には大量の花々の管理業務に加え強風や大雨による花々や土手への被害など毎日のように何かが起き、走り回る日々でした。その度に各業者さんには迅速かつ的確に対応していただき、里山ガーデンを縁の下で支えていただきました。

また、現場で花ガラ摘みなどの作業を行なっていると、来場者の方から「わー、きれいね～」や「いつもきれいにしてくれてありがとう。」など、声をかけていただくことがありました。小学生の女の子に「こんな綺麗な花壇初めて見た！」と言ってもらえた時は、この仕事をやってきて良かったと思えた瞬間でした。来場者の方々の笑顔を見て、改めて花や緑の力を感じることができました。

フェアを通して出会うことのできた、各業者の皆様やガーデナーさん、市民の方々から本当に多くのことを学ぶことができ、「花と緑」を中心に人と人をつなぐというフェアの愛称である〝ガーデンネックレス〟を身をもって感じることができました。フェアに向けて準備をスタートした当初は悩みながら、不安の中で仕事を進めていましたが、本当に多くの方々に支えられ無事にやり遂げることができました。

今後も花や緑で横浜をより魅力的にし、市民の方や横浜に訪れた方を笑顔にできるようなそんな仕事に携わっていけたらと思います。

平成29年度横浜市優良工事表彰

11月2日ワークピア横浜で平成29年度横浜市優良工事表彰式が行われた。

横浜市優良工事表彰は、横浜市における工事の品質及び施工者の施工技術並びに意欲の向上を目的として、横浜市が発注した工事を優秀な成績で施工した施工会社及び現場責任者の方々を表彰している。38回目を迎える本年度も市長表彰を行った。

ここに造園部門において表彰された会員会社及び現場代理人を紹介する。

優良工事施工会社表彰

①受賞社
②代表工事
③監督部署コメント

①㈱濱田園・㈱泰山園（JV）
②グランモール公園再整備工事（園地整備その2）

③環境創造局公園緑地整備課
みなとみらい21地区の主要な歩行者軸であり、憩いと賑わいの空間として重要なグランモール公園の再整備において、その設計意図を把握し、ベンチや水景、舗装等の意匠性の高い施設の材料確認や仕上りに配慮し、詳細な施工図や模型、実寸大の仕上がりサンプルを作成するなど、より良い施工となるように努め、本公園にふさわしい質の高い整備を行っていただきました。

また、会社全体で施工体制を整え、出来形・品質管理書類等を日々適切にまとめるなど、質の高い完成図書を提出していただきました。

①㈱田澤園
②横浜動物の森公園植物公園一部整備工事（その2）

③環境創造局公園緑地整備課
本工事は全国都市緑化よこはまフェアの主会場の一つ、里山ガーデンの会場整備を行ったものです。

関連工事が多い中で工程管理を綿密に行い、植栽の材料調達や配置、舗装の仕上げ方法など積極的な提案をもって施工し、全体的に美観に優れた工事を行っていただきました。

①藤造園建設㈱
②グランモール公園ほか2公園緑化整備工事

③環境創造局全国都市緑化フェア推進課
第33回全国都市緑化よこはまフェアの会場の一つであるグランモール公園では、フェアと共通する植物材料について、種類・規格・完成イメージ等をよく調整し、各種提案をもって施工したことで、みなとみらい21地区の主要な憩いと賑わいの空間としてふさわしい仕上がりとなりました。

また、フェアの競合工事と施工調整し、多くの利用者に供用しながら、保安施設の管理、利用者の動線確保を適切に行い、工期内に工事を完成していただきました。

現場責任者表彰

粟飯原　吉伸
㈱濱田園

風間　稔
㈱泰山園

岩下　光彦
㈱田澤園

大久保　順広
㈱濱田園

高橋　強
㈱泰山園

川嶋　孝憲
㈱田澤園

ツリーライダー（造園用胴ベルト型安全帯）の正しい使用方法研修会 開催報告

造園工事の作業環境と安全確保

造園工事は、人にとって快適な環境を提供するものであり、その土地の風土や周辺の景観を取り入れながら、工事完成後も成長を続ける樹木を主な資材として、時間をかけて景観を熟成していくという特徴を有している。

植栽された樹木を造園空間に合わせて良好な樹形に保つためには、定期的に適切な技術による透かしや切り戻しが必要であり、樹木の成長に応じ高所での作業を伴うこととなる。

建設業の労働災害の特色として墜落災害が多く発生しているが、造園工事では、新設工事よりも高木剪定や草刈りなどの維持管理中に発生する災害が多いことが特筆すべき事項となっている。

労働安全衛生法では、「事業者は、高さが2メートル以上の箇所で作業を行なう場合において墜落により労働者に危険を及ぼすおそれのあるときは、足場を組み立てる等の方法により作業床を設けなければならない。作業床を設けることが困難なときは、防網を張り、労働者に安全帯を使用させる等、墜落による労働者の危険を防止するための措置を講じなければならない。」とされているが、造園工事で行われる高所での作業環境は、一般的な建築、土木の現場での高所作業とは異なり、築山をはじめとする地形のアンジュレーションや灌木の植込みなど変化に富んでおり、地面が平らであることは少なく、高所作業車を使用することができない環境であることも多い。

また、街路樹剪定では、一般車両と歩行者が通行する中での作業となり、地表には歩車道の舗装、ガードパイプ、ガードレールなどが存在し、万が一転落した際には重大な労働災害が発生する環境である。

人にとって快適な環境を創出する造園工事に携わる人々が、労働災害の発生により受傷することがあってはならず、安全に対する意識の向上を欠かすことはできない。

日造協では、より安全で快適な作業環境を確保するため、作業中の安定した姿勢確保と、万が一の落下の際にも腰と腿で体を支持することで、従来の胴ベルト型安全帯に比べて衝撃を分散して受け止めることのできる、造園作業に適したシットハーネス型の安全帯の開発に着手し、労働安全衛生法42条の規定に基づく安全帯の規格に適合した1本吊、U字吊兼用の安全帯として製品化し、愛称を「ツリーライダー」として商標登録出願中である。

安全帯の正しい使い方研修会

横浜市造園協会では、いち早く「ツリーライダー」に着目しその普及啓発に取り組みを始めた。

まずは、ツリーライダーの正しい使い方を周知するため、「造園工事で行われる高所での作業をより安全に」行うため、①安全に関する知識と正しいとりくみ、②新しい装備への対応、③安全な造園の作業環境確保、④労働災害の防止、以上を目的とした研修会が、横浜ズーラシアを会場として1月30日に開催された。

研修会は、講師を日造協技術委員会安全部会のメンバーが担当し、午前、午後の2回に分けて約80名が参加した。

造園での事故発生状況や労働安全法の高所作業など、安全に関する基礎知識と個人用安全装備の種類と特徴などについての講義を行い、ツリーライダーの点検と装着の解説をしながら、受講者にツリーライダーを正しく装着していただいた。

その後、屋外のケヤキを教材に、2丁掛けによる脚立の昇降と、枝乗りの安全帯ランヤードの掛け替えを実習し、ロープに全体重を預けてツリーライダーの安定性、落下時の衝撃体験を行った。

日常使用している、胴ベルト型安全帯でも実際に自分の体重をかけた経験のある方は少なく、イザという時の対応も体験することができたようである。

この研修会が、参加したみなさまの安全意識の向上に寄与するとともに、日々の業務で、安全な作業環境の確保に活用し、墜落事故の根絶に役立てていただくことを願っている。

一般社団法人　日本造園建設業協会　技術・調査部長　野村徹郎

横浜市造園技術交流会
第33回工事安全パトロールを実施

実施日　平成30年2月1日（木）

目　的　横浜市造園技術交流事業の一環として、主に環境創造局発注工事の現場における安全管理の状況を合同で点検し、更なる安全管理体制の強化を図るために実施する。合同で巡視を行うことで、現場の安全管理状況、問題点を把握し、的確に是正指導等の処置を取り、問題（災害等）の発生の未然防止を図ると共に、官民相互の安全管理に関するレベルアップに繋げることを目的とする。

出席者　横浜市環境創造局造園技術交流会幹事他8名安全委員会（10名）緑の諮問・技術委員会（各1名）

点検対象　一部施設改良工事・一部再整備工事　各1現場

改善事項

・仮設橋の車両耐荷重や手すりのぐら付き、床材の段差（バタつき）

・仮設土留めと切土面の間への雨水の侵入

・バリケードのぐら付き

・人止めロープの高さが低い

・工事車両搬出入用に外した車止めの置き方(横倒しにする等)と利用者に配慮したさや管部の安全養生

・足場における頭上注意サインの入口設置

・作業側に親綱の設置

評価事項

・安全関連書類や標識類

・施工体系図・緊急連絡網の設置

・作業員の利便を考慮した自販機の設置

・仮設照明設置

・施設養生や注意喚起サイン

・具体的な作業手順を示しながらのKY活動

・安全、環境に配慮した作業計画

安全担当理事コメント

今回の2現場は、書類・現場管理共に概ね良好でした。

第三者との共用区間や作業日・作業時間等、制約が多い工事現場が増えてきています。第三者への安全確保を優先するあまり、作業員の安全確保が疎かに成りがちです。作業員の安全確保についても確実に行って下さい。

また、年度末は工事が完工時期を迎え繁忙期となり、労働災害が発生する可能性が高まりやすい時期です。既に取り組んでおられるとは存じますが、「安全管理」につきまして更なる強化をお願いし、無事故無災害で新年度をお迎え下さい。

「花壇展」会場：象の鼻パーク　期間：4/13 ～ 5/6
協会員 20 区画・横浜農協 1 区画